

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（精神障害分野））  
分担 研究報告書

末梢血のAGEsを含む代謝産物をバイオマーカーとする統合失調症の  
早期診断法の確立に関する研究

研究分担者 吉田 寿美子 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部長  
研究協力者 功刀 浩 国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病3部部長

研究要旨：髄液中のAGEsを統合失調症、うつ病、健常群で比較したが、検体数が少なく今回の検討では有意差が認められなかった。今後は検体数を増やすと共に、生化学検査など両群の身体合併症の有無の確認も重要と思われる。

A．研究目的

統合失調症患者、うつ病、健常者の髄液（CSF）中の終末糖化産物（AGEs）を測定し、末梢血で認められた差異がCSFでも同様に認められるか検証する。

B．研究方法

当センター疾病3部で収集したCSFを用い、統合失調症患者、うつ病患者、健常者のCSF中のAGEsを測定して比較検討した。

（倫理面への配慮）

主任研究者が属する施設の倫理審査後、当院倫理審査を申請し、承認を得た。

C．研究結果

年齢と性別をマッチさせた統合失調症患者8名と健常対象者6名、大うつ病性障害患者2名のCSFのAGE計測を行ったところ、いずれも平均20ng/ml前後と各群に有意差はなかった。

自己申告による健常対象者の身体合併症には糖尿病や腎臓病は無く、高血圧症1名、甲状腺機能亢進症1名を認めた。

D．考察

検体数が少なく、今回の比較検討では有意差が認められなかった。今後は検体数を増やすと共に、自己申告ではなく生化学検査に基づいた糖尿病や腎機能障害といったAGEsの動態に大きな影響を及ぼす身体合併症の有無を調べる事も重要と思われた。

E．結論

髄液中のAGEsを統合失調症、大うつ病性障害、健常群で比較したが、検体数が少なく、有意差を認めなかった。

G．研究発表

1. 論文発表

Yamashita M, Yoshida S et al.: Impaired cliff avoidance reaction in Dopamine transporter Knockout mice. *Psychopharmacology*, 227, 741-749, 2013.

2. 学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし